

すくすく育て! 平和のシンボル「ポプラ」「アオギリ」

六方学園では、広島市の平和のシンボルとして知られる二種の木が元気に育っています。
 一つは、被爆後すぐに植えられ、平和と復興のシンボルとして親しまれてきたポプラの二代目。
 台風で倒れてしまった初代の根元から移植したもので、すでに三代目も生まれ、
 うち一本は広島市の元の場所に里帰りを果たしました。
 そしてもう一つは、歌にもなっている被爆アオギリの二代目と三代目です。
 ポプラとアオギリは、その元気な姿で利用者に命の大切さを語っています。

メディア掲載



学園内のポプラ



学園で生まれた三代目



本川東岸に里帰りしたポプラ

2014年(平成26年)2月11日(火曜日)

基町ポプラ 3代目植樹
22日、参加者募る

広島市中区の本川東岸の通称「基町ポプラ通り」で、3代目となるポプラの苗木を植えるイベントが22日午

前10時にある。主催する市民グループ「ポプラ・ペアレント・クラブ」が参加者を募っている。

初代は2004年、台風で倒れた。その根元から生えた木を2代目として植えていたが、13年1月に病気で枯れた。

今回は、2代目と同じく初代の根元から生え、東広島市の障害者支援施設で育てられた木のさらに根元から生えた苗木を3代目とする。高さは約50センチ。当日は餅をついて祝う。初代は被爆間もなく植えられた。一帯のシンボルとして親しまれ、結婚式や映画の野外上映会などが開かれてきた。同クラブの隆杉種子代表幹事は「大勢に関わってもらい、親しまれる木にした」と参加を呼び掛けている。雨天時は23日に順延。(山本祐司)

2014年2月11日 中国新聞

被爆アオギリ園内に
東広島 六方学園で植樹

東広島市西条町田口運動場で、葉を付けたの知的障害者施設「六方学園」の利用者が二十九日、被爆アオギリ二世と三世の苗木計三本を園内に植えた。原爆で被災した学園が、平和記念公園にある被爆アオギリの種から苗木を育てている被爆アオギリの会(福山市)に協力を依頼した。利用者約八十人は、彦坂昭子代表(81)から原爆の話聞いた後、

運動場で、葉を付けた二世二本と、三世一本に土をかけた。原爆投下当時、現在の広島市東区にあった学園は、原爆で園舎が半壊。「学園もアオギリも被爆した仲間」として、学園が会に植樹する苗を提供してもらった。彦坂代表は「アオギリを通して、利用者に命の大切さを感じてほしい」と願っていた。(治徳貴子)

2008年4月30日 中国新聞

広島市民に愛される被爆アオギリ

70年前に原子爆弾で廃墟となった広島は、70年間は草木も生えず、人も住めないだろうと言われていた。そんな中で被爆したアオギリが新しい芽を出したことで、体も心も傷つき、生きる気力を失っていた人々は、植物の持つ生命力の強さに勇気もらい、復興に立ち上がったのである。